

4 章 河川維持工

- 4.1 堤防除草工
- 4.2 堤防天端補修工
- 4.3 堤防芝養生工
- 4.4 伐木除根工
- 4.5 塵芥処理工
- 4.6 ボーリンググラウト工

4章 河川維持工

4.1 堤防除草工

1. 適用

河川堤防及び高水敷等の除草及び集草に適用する。
芝育成を目的とした芝堤除草（芝刈）、芝養生（抜取り）、薬剤散布は含まない。

2. 数量算出項目

除草の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は作業内容とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	施工箇所	作業内容	単位	数量	備考
堤防除草	○	○	m ²		

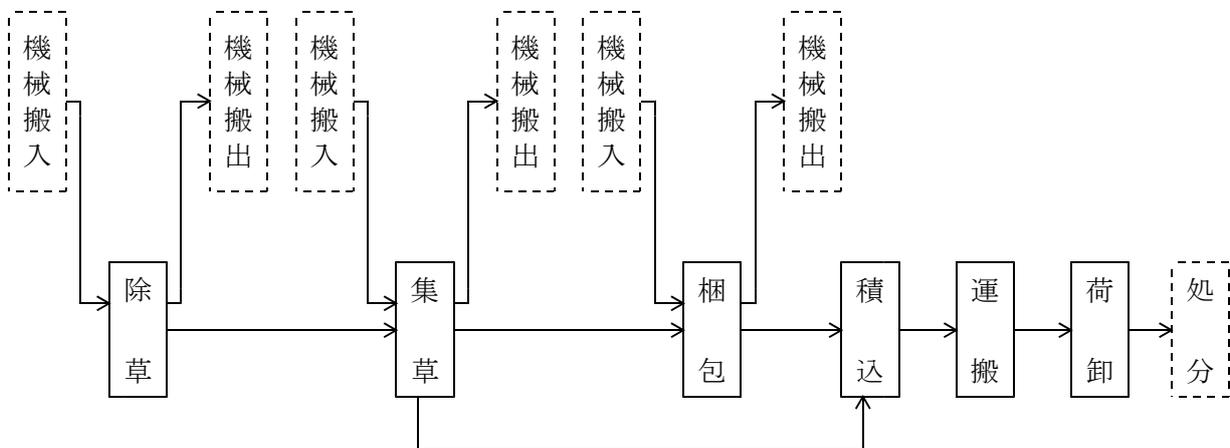
(2) 作業内容区分

除草面積を作業内容（除草，集草，梱包，積込・荷卸）ごとに区分して算出する。
なお、運搬が必要な場合は、運搬経路に応じて、運搬距離を算出する。

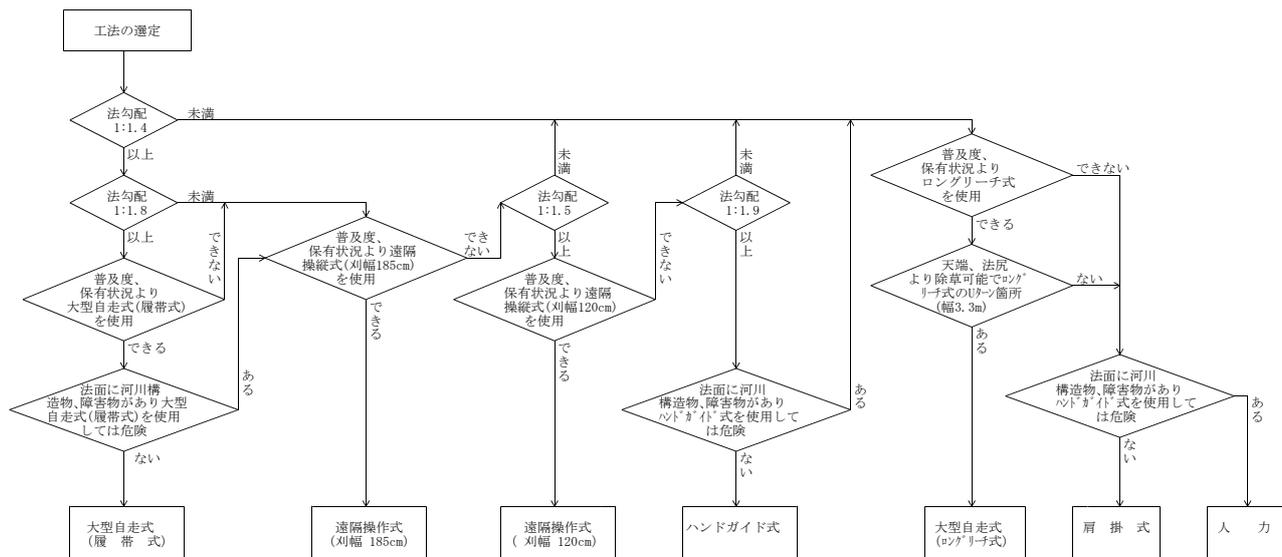
(3) 施工箇所毎に工法を区分して算出する。

4. 参考図

(1) 標準施工フローは下図のとおりとする。



(2) 工法選定フローは下図のとおりとする。



4.2 堤防天端補修工

1. 適用

河川堤防の管理用通路における堤防天端補修に適用する。

2. 数量算出項目

堤防天端補修の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、作業内容とする。

(1) 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	規格	作業内容	単位	数量	備考
堤防天端補修	○	○	m ²		

(2) 規格区分

堤防天端補修の面積を補修材の規格ごとに区分して算出する。

(3) 作業内容区分

堤防天端補修の面積を作業内容ごとに以下の区分して算出する。

作業内容 ———— 不陸整正+締固め
 └——— 不陸整正+補修材敷均し+締固め

(4) 補修材

補修材は必要に応じて算出するものとし、規格の種類毎に必要な厚さ (cm)を算出する。

4.3 堤防芝養生工

1. 適用

河川堤防及び高水敷等の芝育成を目的とした芝養生工のうち、施肥工、抜根工、集草・積込運搬に適用する。

2. 数量算出項目

堤防芝養生の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

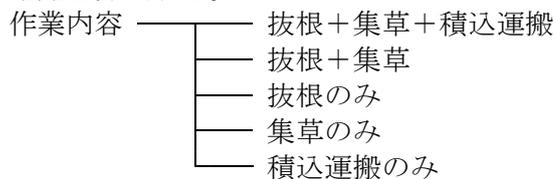
区分は、規格、作業内容とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	作業内容	単位	数量	備考
施肥	×	m ²		
抜根除草	○	m ²		

(2) 作業内容区分

抜根の作業内容を以下の区分ごとに算出する。なお運搬が必要な場合は、運搬経路に応じて運搬距離を算出する。



4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 肥料は、施肥する芝の10,000m²あたり使用量の質量(kg)を算出する。

4.4 伐木除根工

1. 適用

河川堤防、高水敷又は中州等に繁茂する樹木の伐木又は竹の伐竹を行う伐木除根工のうち、伐木又は伐竹、除根、整地、集積、現場外搬出に適用する。

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、作業内容とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	作業内容	規格	単位	数量	備考
伐 木	○	○	m ²		
伐 竹	○	×	m ²		

(2) 作業内容区分

各項目（伐木、伐竹）の作業内容は、各項目ごとに除根・整地・集積・運搬作業の有無を各々区分して算出する。

(3) 規格

伐木の規格は現場条件を下記の区分により算出する。

現場条件 ———— 粗
 └——— 密

- ・粗とは、概ね50（本/100m²）未満とする。
- ・密とは、概ね50（本/100m²）以上とする。

4.5 塵芥処理工

1. 適用

河川堤防、高水敷又は中州等の陸上部にある塵芥の収集・集積、現場外搬出に適用する。

2. 数量算出項目

散在塵芥の収集面積、堆積塵芥の収集体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、作業区分、塵芥の種類、DID区間の有無、運搬距離とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	作業区分	塵芥の種類	DID区間の有無	運搬距離	ダンプトラック持込・貸与	単位	数量	備考
散在塵芥収集	○	×	○	○	○	m ²		
堆積塵芥収集 (機械処理)	○	○	○	○	○	m ³		
堆積塵芥収集 (人力処理)	○	○	○	○	○	m ³		

(2) 項目分類

塵芥量が1 m³/1000 m²程度以下の場合は、散在塵芥収集とし、それ以上の場合は、堆積塵芥収集を標準とする。

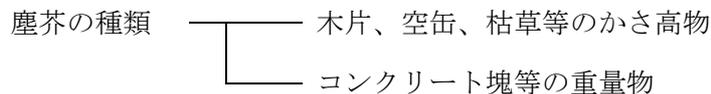
(3) 作業区分

作業区分は、以下のとおりとする。



(4) 塵芥の種類区分

堆積塵芥の種類による区分は、以下のとおりとする。



4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

4.6 ボーリンググラウト工

1. 適用

河川構造物（樋管・樋門・水門・堤防等）周辺の止水、空洞充填等を目的にセメント・ベントナイト等を注入するボーリンググラウト工に適用する。

2. 数量算出項目

孔の数，注入材量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、削孔工法、土質、削孔長とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	削孔工法	土質	削孔長	規格	単位	数量	備考
孔数	ロッド	○	○	×	孔		
	パッカー	×					
注入材量		×	×	○	m ³		

(注) 削孔工法は、土を削孔するロッド工法、コンクリート床版を削孔するパッカー工法とする。

(2) 土質区分

土質による区分は、以下の通りとする。

土質 ———— 粘性土、砂質土
 └── レキ質土

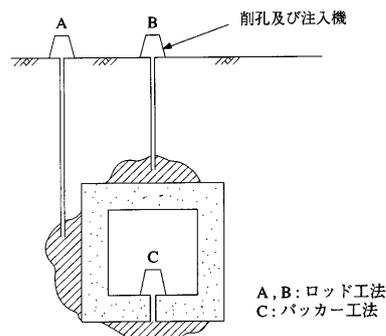
(3) 削孔長区分

孔数を削孔長ごとに区分して算出する。

(4) 規格

注入材料の規格はその配合を 1 m³ 当りで算出する。

4. 参考図（施工法）



4.7 袋詰玉石工

1. 適用

袋材（袋規格2 t用及び3 t用）に詰石（50mm～300mm程度の玉石、割栗石、コンクリート殻）したものを現地で製作し、築堤・護岸の根固め・床固めとして据付ける場合に適用する。なお、積み方法は、乱積み及び多段積みとする。

2. 数量算出項目

袋数を区分ごとに算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	規格	単位	数量	備考
袋詰玉石用袋材		○	袋		
中詰材		○	—	×	

(2) 袋詰玉石

規格（袋詰玉石用袋材）による区分は下記のとおりとする。

- ① 2 t用
- ② 3 t用

(3) 中詰材

中詰材による区分は下記のとおりとする。

- ① 購入材
- ② 流用又は採取材

4.8 笠コンクリートブロック据付工

1. 適用

矢板護岸工に使用する1.1t未満のプレキャスト笠コンクリートブロックの据付に適用する。

2. 数量算出項目

笠コンクリートブロックの延長、中詰コンクリートの体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、中詰コンクリート型枠の有無、中詰コンクリート規格、中詰コンクリート100m当り設計量とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	中詰コンクリート 型枠の有無	中詰コンクリート 規格	中詰コンクリート 100m当り 設計量	単位	数量	備考
笠コンクリートブロック		○	○	○	m		

注) 基礎碎石の敷均し厚は、10cm以下を標準とし、材料の種別・規格を問わない。

(2) 規格区分

1. 笠コンクリートブロック

規格には、笠コンクリートブロック1個当りの寸法を記載する。

注) 100m当りのブロック個数も算出すること。

2. 中詰コンクリート

使用するコンクリートの規格を記載する。

注) 100m当りの設計量(m³)も算出すること。